

# 会報

第94号

平成19年3月9日  
新潟県特別支援教育研究会  
事務局：  
新潟市白山浦1-207-3  
鏡淵小学校内  
発行：文久



新潟県特別支援教育研究会 会長

松原 誠

「人」を見ること、「心穏やか」であること

昨年は、全国特別支援教育研究連盟全国大会・新潟大会の開催に当たり、皆様から格別のご支援・ご協力を頂きました。おかげさまで盛会裏に大会を終えることができました。深く御礼申し上げます。

平成十五年度から四年間、会長の任に就かせて頂きましたが、今年度末で退任となります。いろいろな面でのご協力ありがとうございました。最後の機会ですので、自身の障害児教育の経験から思うことを述べさせていただきます。

一つは「障害ではなく人を見る」ことの大切さということです。私は新採用で柏崎養護学校に赴任し、進行性筋ジストロフィー症児七人の学級担任となりました。全員が既に車

椅子に乗っていました。若くして亡くなる子どもたちであり、私の心も大いに動揺していたのです。私は「この子どもたちには死を受け入れる教育が必要だ」などと真剣に考え、同僚教師と議論していったのです。ある日、彼らの病棟を訪ねました。病室の壁面には山口百恵さんや森昌子さんなど、当時のアイドルたちのプロマイドがはってあったのです。それを見て、私は目から鱗が落ちるように気付いたのです。「障害にこだわるのではなく、その子の興味や関心事などに目を向け、その人全体を見て付き合っていけばいいのだ」と。このことに気付いてから、私自身の気持ちも、随分楽になりました。子どもたちも、どうすることもできないウィークポイントを見られるよりも、興

味・関心に目を向けてもらう方がいいに決まっています。それ以来、子どもたちと心を通わせ合うことができました。「障害ではなく人を見る」は今でも私のモットーになっています。

もう一つは「おだやかな心」の大切さということです。筑波大学の宮本信也先生は、ある教育誌で次のように述べています。「私たちは発達障害児への対応を見直すべきところにかけているのではないだろうか。発達障害の状態をなんとか改善したいとばかり考えていると、子どもの毎日が訓練に明け暮れることになってしまいかねない」「発達促進の試みも、飽きたなら、もっと楽しいことをしようかというスタンスがいいように思う」「親の役割は、今日一日楽しかったと思える日を、一日でも多くしてあげることではないだろうか。子どもたちは皆、将来ではなく、今を楽しむ権利をもっているのだから」と。大人がこのようなスタンスでいると、子どもたちは「おだやかな心」でいられると思います。自分の力を発揮して物事に取り組んでいく基礎には、おだやかな心があるのではないのでしょうか。こんな考えで、子どもたちと付き合っています。所感を述べ、「会報」に寄せる言葉とします。

平成一八年度県特支研役員

〈敬称略〉

会長

松原 誠 (新潟市立養護)

副会長

渡辺 吉和 (高田西小)

金子 周一 (三条小)

松浦 敏夫 (県立高田養護)

理事

白川 ナツ子 (新井小)

大冢 政士 (大洲小)

笠井 博 (千手小)

桑原 正 (北辰小)

橋本 定男 (鏡淵小)

坂井 潔 (小針小)

菊池 秀夫 (石山中)

成田 武比古 (外ヶ輪小)

本多 博行 (新津第一小)

佐野 一彦 (県立村上養護)

鷲津 毅史 (県立佐渡養護)

佐藤 高志 (新大附属養護)

会計監査

恩田 正身 (糸魚川小)

小川 健男 (新町小)

赤塚 一 (燕東小)

# 全国大会特集

昨年十月十七日～二十一日にかけて、県民会館、朱鷺メッセ、市内各学校において「第四十五回全国特別支援教育研究連盟全国大会新潟大会」が開催されました。

今大会は、障害のある児童生徒の学校生活の充実、軽度発達障害や困難性についての理解、一人一人のニーズへの適切な対応などについて、全国各地の実践を持ち寄り、活発な協議を展開しました。

## 全体会の様子

### 記念講演

演題「音楽と共に」  
講師 ヴァイオリニスト  
川島成道 様



幼少期に視力を失いながらも、家族の支えと自らの努力で音楽家として大成するまでの経緯、心の葛藤などをご講話いただきました。

### 開催地発表



新潟大学教育人間科学部  
附属養護学校  
岡田 義則 教諭  
山田 澄人 教諭  
「地域との連携による  
特別支援教育推進の取組み」

### 研究奨励賞



千葉県船橋市立  
芝山東小学校  
向野 紀子 教諭  
「開店！手作り餃子の店『ひかり亭』」  
児童による実演を発表

### アトラクション

サンバリズム  
パフォーマンス&ダンス  
ほがらか福祉園



サンバチーム「La Gatta」(ら・ガッタ)によるダンス。障害の有無など感じさせない。躍動感あふれる発表でした。

### シンポジウム

テーマ「特別支援教育の創造的展開」  
～実践化に向けた確かな取組みを～

提言者

文科省初等中等教育局特別支援教育課長 瀧本 寛 様

県教育委員会義務教育課障害児教育係長 佐藤昇誠 様

筑波大学特別支援教育研究センター教授 藤原義博 様

全国特殊学級設置学校長協会長 若崎隆夫 様

全国知的障害養護学校長会長 三苫由紀雄 様

司会者 小出 進 様

全日本特別支援教育研究連盟理事長 小出 進 様



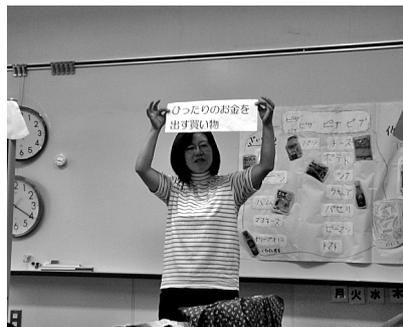
文部科学省からの特別支援教育における方向性を受けて、教育委員会、学校、大学それぞれの立場から、これまでの成果や今後の課題などが上げられました。

### 平成十八年度全特連功労者賞

- 前新潟県立高等養護学校校長 尾方 洸 様
- 前新潟県立新潟養護学校校長 岡本佳典 様

## 分科会の様子

### 第四分科会 算数・数学の指導



新潟市立新潟小学校

### 第七分科会 LD・ADHD等への支援



朱鷺メッセ



弥彦神社 ～良寛コース

研究視察



県立高等養護学校

第十二分科会 作業学習

平成十八年度

県特支研評議委員

〈敬称略〉

- 上越地区 村山 暁(安塚小)
- 糸魚川地区 竹田 正光(大和川小)
- 新井地区 井上 政身(矢代小)
- 柏崎地区 碓井 和子(新道小)
- 東頸城地区 関谷 利良(松代小)
- 中頸城地区 後藤 清代(大潟町小)
- 西頸城地区 小竹 京子(中能生小)
- 刈羽地区 中山 博迪(渋海小)
- 長岡地区 遠山 昇(大島中)
- 三条地区 山田 俊彦(第一中)
- 小千谷地区 福島 正(小千谷中)
- 加茂地区 山田 茂(加茂小)
- 十日町地区 池田 隆(川治小)
- 見附地区 今井 崇(今町小)

- 栃尾地区 大谷 実(栃尾南小)
- 南蒲原地区 吉樂 悟(田上小)
- 三島地区 森 紀之(寺泊中)
- 北魚沼地区 阿部 正廣(広神西小)
- 南魚沼地区 保坂 吉俊(湯沢中)
- 中魚沼地区 小船井 隆一(田沢小)
- 新潟地区 高橋 邦彦(万代長嶺小)
- 新発田地区 前田 清(猿橋小)
- 新潟地区 小林 吉男(新潟第二小)
- 村上・岩船地区 村上・岩船地区(小)
- 本間 直也(関小)
- 村上・岩船地区 村上・岩船地区(中)
- 池田 雅章(岩船中)
- 燕地区 桑原 幸男(燕西小)
- 五泉地区 塩谷 新一郎(五泉北中)
- 佐渡地区 笹本 芳廣(加茂小)
- 佐渡地区 吉田 久人(金井中)
- 白根地区 森田 和之(庄瀬小)

- 豊栄地区 伊藤 喜一(葛塚東小)
  - 北蒲原地区 藤田 哲也(きのと小)
  - 阿賀野地区 毛利 隆二(京ヶ瀬小)
  - 中蒲原地区 朝倉 悟(亀田中)
  - 西蒲原地区 遠藤 昇(巻南小)
  - 東蒲原地区 清野 正悦(鹿瀬小)
  - 特別支援教育諸学校(盲) 小西 明(県立新潟盲)
  - 特別支援教育諸学校(聾) 坂井 国興(県立長岡聾)
  - 特別支援教育諸学校(病) 平野 正史(県立柏崎養護)
  - 特別支援教育諸学校(肢体) 白岩 嘉之(県立上越養護)
- 平成十八年度 県特支研事務局
- 事務局長 駿河 仁志(鏡淵小)
  - 事務局 風間 昌幸(鏡淵小)
  - 今井 信郎(鏡淵小)
  - 岩崎 悦子(鏡淵小)
  - 斉藤美津子(鏡淵小)
  - 長谷川昭子(鏡淵小)

# 平成十八年度各研究グループの報告

## ◇知的障害部

○研修会の期日及び会場

・期日 平成十八年八月二十九日

・会場 県立生涯学習推進センター

○講師

・福島大学大学院教育学研究科

教授 水野薫 様

○演題

「発達障害の理解とその支援の仕方」

～発達障害をもつ子の指導～

○概要

・参加人数 百二十五名

### 【講演内容】

①軽度発達障害について

軽度発達障害の割合と人数、さまざまな障害についての概要説明を受ける。

②学習指導について

学習指導上の留意事項や自立していくために必要な基礎学力が身につくようにする。

③教育の場を選ぶことについて

障害の特性をよくみて、知的レベルを考慮し、将来自立していけるように社会適応を重視して育てるようにする。

○まとめ

今年度も、県外から発達障害の研究

を専門にしている先生を指導者に迎えることができた。

そのため、特別支援学級担当以外の通常学級担任や級外職員の参加があり、好評であった。

## ◇言語難聴

○総会及び研修会

・期日

平成十八年七月三十一日(月)

・会場 クロス・パル新潟

・参加人数 六十五人

・議事

①平成十七年度事業・会計報告

②平成十八年度事業・予算審議

③役員選出及び承認

④幹事会報告

・講演会

(講師)

筑波技術大学

教授 佐藤 正幸 様

(演題)

「きこえない・きこえにくい

子どもの豊かな学校生活を

考える」

(内容)

聴覚障害児のコミュニケーション

や障害認識、特別支援学級・

通級指導教室担当者ができる支援

等について、先生のご経験を基にご講演いただいた。

○幹事会

・期日

平成十九年二月二十八日(水)

・会場 新潟市立鏡淵小学校

・参加人数 十人

・議事

①平成十八年度事業・会計報告

②平成十九年度事業・予算審議

## ◇情緒障害部

○研究主題

「自閉的傾向のある児童・生徒の理解と支援のあり方」

○総会及び研修会

・日 時

平成十八年八月八日(火)

午後一時三十分～四時三十分

・会場

長岡市立中之島文化センター

・参加人数 二百一名

・内容 総会、講演会

※今年度は、全特連全国大会が新潟市で行われたので、研修会実施は一回のみとした。

・講演会

講師 新潟市立万代長嶺小学校

教諭 伊藤 雅子 様

演題

「心理検査結果の見方と活用」

◇「WISC-III」を中心に、検査実

施上の留意点、結果の見方や解

釈の仕方、保護者に結果を伝える際のポイント等についてご講話をいただいた。

○幹事会

第一回を六月二十三日(金)に、

第二回を十二月七日(木)に、長

岡市立千手小学校で実施した。

第一回十四名、第二回十三名が

出席し、事業計画、予算、事業反

省、来年度の方向等を協議した。

## ◇病弱肢体不自由部

○担任者研修会

・期 日

平成十八年八月二十二日(火)

・会 場

新潟県はまぐみ小児療育センター

○概 要

・参加人数 三十一名

理学療法士の佐藤理美様から、運動発達の順序性や姿勢獲得の意味をご講義頂き、実技講習の中で、子どもの気持ちを大切にされた介助や支援の大切さを教えて頂いた。

また、療育支援室新保和敏様から、施設の案内と概要を説明して頂き、肢体不自由児施設、重症心身児施設としての役割の大きさを実感した。

さらに小児科の福島愛様から、重症心身障害児の医療的ケアについてのご講義をいただいた。呼吸、摂食嚥下の機能の障害や姿勢の配慮についての専門的な内容が盛りだくさん

だった。